

社会福祉協議会と災害ボランティアセンター

～人吉・球磨での災害ボランティアについての取り組み～

災害ボランティアセンターについては、次のような理由から全国の各市町村の社会福祉協議会が積極的に運営することになっています。

- ① undanから災害などで避難するときに支援が必要な高齢者や障がいを持つ人（避難行動要支援者）などへの声掛け・見守り活動など地域に根づいた活動を行っている。
- ② undanからボランティアの相談・登録・あつ旋を行うボランティアセンターを運営している。
- ③ 復旧から復興への長期支援については、地元の機関・団体でないに対応が困難である。
- ④ 仮に市町村の社協が被災し、地元の職員だけでは災害ボランティアセンターの運営が難しい状態でも、郡内・県内・全国の社協職員が被災地社協へ駆けつけセンター運営の協力をを行うことができる。

⑤「福祉」とはundanのくらしのしあわせをかなえることで、被災して困っている住民の方々が、1日も早く「普段の暮らしの幸せ」を取り戻せるように、全国各地から駆けつけてくれるボランティアや地域住民の方々と力を合わせて（地域力・住民力で）支援することが社会福祉協議会の使命である。



多良木町でも、災害ボランティア活動計画において、ボランティアの受入窓口は



社協に設置することとなっています。

人吉・球磨では、過去にも広域的な災害ボランティアセンター設置訓練を実施してきましたが、毎年という訳ではありませんでした。そこで、平成23年9月に10の市町村で災害時相互応援協定を締結しました。そして、この応援協定に基づき、人吉・球磨郡を球磨ブロックとし、共通の災害ボランティアセンター運営マニュアルを作成し、平成23年度のあさぎり町をはじめ、山江村、多良

木町、相良村で実施するなど毎年度、設置訓練を実施しています。また、同日に炊き出し訓練や、足湯の体験などのコーナーも設けて200名以上の住民に参加していただいています。このように、活動の積み重ねにより球磨ブロックでも災害ボランティアが少しずつ定着してきました。

次ページでは、災害ボランティアセンターの活動の流れなど、毎年実施している内容を紹介します。



災害ボランティアセンター設置訓練

ここでは、災害ボランティアセンターの流れをご紹介します。



① ボランティア受付



受付をし名札作成等を行う。

② オリエンテーション



個人情報の保護など活動上の留意事項の説明を受ける。

⑤ 資材の貸し出し



必要な資材の貸し出し。

④ グループピング



グループをつくり、リーダーを決め、詳しい依頼内容の説明を受ける。

③ マッチング



被災者からの依頼内容を聞き、参加したい活動先を選択。

⑥ 車両の貸し出し・送迎



ボランティアの送迎、車両の貸し出し。

⑦ 救援活動



被災者に寄り添うという気持ちを大切にしながら、ボランティア活動を行う。

⑧ 活動報告



活動の状況などを報告。

ハイゼックス炊き出し訓練

ハイゼックスは特殊なビニール袋(強化ポリエチレン)を使用して行う炊飯方法です。利点は、水なども含めて災害時最小限の材料で調理ができ、保存期間が長いなどです。日赤熊本県支部より講師にきていただき、地域赤十字奉仕団(地域婦人会)の皆様炊き出し訓練を実施していただき、ご飯が炊けるまでの間、救急法の講習も受講されます。



足湯体験

被災地で行われる「足湯」とは、被災された人たちにたらいに張ったお湯に足を浸けてもらい、軽く手をもみほぐしながらコミュニケーションをとる活動です。会話を通じて、被災地の歴史や文化、暮らしなどを知ることができるほか、被災された人たちの悩みや不安をやわらげることもつながる活動です。このような活動を設置訓練参加者に体験していただくこと、中学生や高校生、また傾聴ボランティアの方々に協力していただき実施しています。



このような、活動を通して球磨ブロックでの災害ボランティアへの意識の高まりと、全市町村の社協が一丸となって訓練を行うことで、災害発生後のボランティアセンターのスムーズな立ち上げと、郡内のどこかの市町村で災害が発生した場合でもすべての社協職員がすぐに応援に駆けつける体制が構築されています。

災害ボランティア活動はやる気があり、被災者の力になりたい、気持ちに寄り添える人でしたら活動に参加することができます。年1回は、設置訓練を実施していますので興味がある方は、社会福祉協議会までご連絡ください。

災害発生時には、“助けて”と声を上げることも大切です。 ～災害ボランティアをお願いするときのために～

あってはならないことですが、もし何らかの自然災害等で多良木町が被災した場合、見ず知らずのボランティアを受け入れ手伝いをお願いすることはできますか？全国各地から困っている人を手助けしたいと思っているボランティアが駆けつけても、被災者の助けてほしいという声がないとボランティアの力が有効に活用されない場合があります。ボランティア（特に災害時など）を受け入れる能力のことを受援力といいます。この受援力を高めるためには、平時からボランティアやボランティア活動に対する理解を深めることが重要だとされています。このような視点からいうと災害ボランティアセンター設置訓練に参加し、災害ボランティアの活動内容などを理解することで同時に受援力を高めることにもつながります。また、設置訓練は球磨ブロック社協の連携を強めることはもちろん、災害ボランティアセンターを運営する使命をもつ社協としての受援力を高めることができます。

受援力UPのヒントに、災害時のお手伝いの依頼の基本についてご紹介します。

- ボランティアにお手伝いのお願いをする際には、身の回りの状況や誰が困っているのかなど「地域の状況」をできるだけ具体的にお伝えすることが大切です。災害の際はそのため的情報収集にも努めましょう。
- ボランティアは原則として、被災地に負担をかけないように、水・食事・衣服・宿泊場等の準備を行ってきますので、食事・宿泊場所などの提供や報酬等も必要ありません。困ったときはお互い様なので、お手伝いしてもらいましょう。
- 受け入れをすることになったら、自治会・町内会、民生委員・児童委員などの地域の実情をご存じの地域のリーダーの人たちは、地元のボランティアとともに、パイプ役を務めて地域に紹介するとスムーズに進みます。

支援のお願い(=ニーズ)を、災害ボランティアセンターに出すことによって、ボランティアの人たちがお手伝いにきてくれます。

- ①地域のリーダーの人たちが地域単位で取りまとめてお願いする。
- ②各家に配布されたチラシをみて個別にお願いする。
- ③ボランティアが直接訪問し、聞いてくれるなどの方法があります。

※被害の状況により、遠慮ではなく、本当に支援が不必要の場合は、無理にボランティアを受け入れる必要はありません。理由を説明して断りましょう。



災害発生時にもとても大切な地域の**助け合い**の力

災害発生後に活躍する、災害ボランティアや災害ボランティアセンター、受援力などについてご紹介しました。しかし、とくに災害発生直後は、平時の地域の関わりが大切です。日頃地域で行われている声掛け・見守り活動の対象者が、災害発生時は避難等に特に支援を要する人(避難行動要支援者)として対象となり、ふだんの関わりの中で得た情報が救出・支援活動に有効な情報になる場合があります。

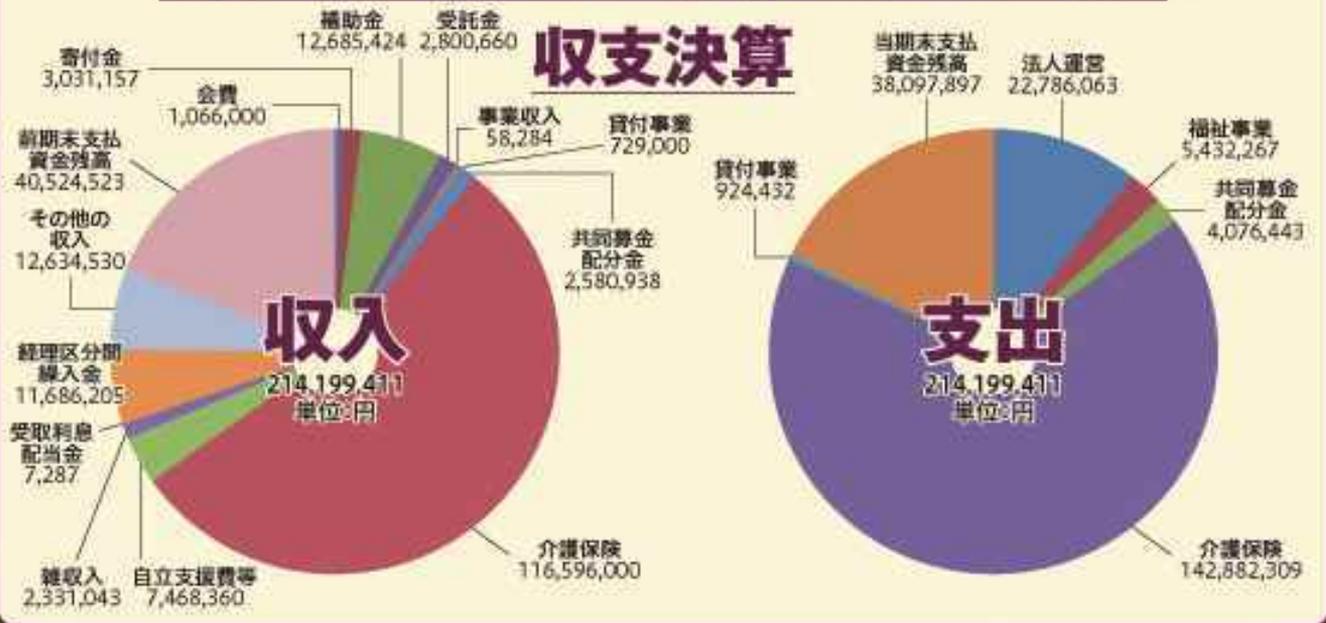
平成26年11月22日夜に最大震度6弱を記録した長野北部地震でも、被害が深刻だった白馬村では、地域の助け合いが生んだ死者ゼロの奇跡としてマスコミでも取り上げられています。顔が見える日頃のお付き合い・交流が、強い絆と助け合いの精神として地震発生直後も大きな地域の力となって被災地での住民による救出活動につながりました。

あってはならないことですが、いざ自然災害が発生した場合はふだんのお付き合いで培われた地域力と、全国各地から駆けつける災害ボランティアの力を有効に活用することが、被災地において一日も早く「ふだんの ぐらしの しあわせ」を取りもどすことにつながります。



平成25年度 社会福祉協議会決算

収支決算



貸借対照表

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	57,020,256	流動負債	18,922,359
固定資産	333,361,093	固定負債	70,459,152
基本財産	41,006,831	負債の部 合計	89,381,511
その他の固定資産	292,354,262	純資産の部	
		基本金	1,000,000
		国庫補助金等特別積立金	10,834,873
		その他の積立金	213,958,131
		次期繰越活動収支差額	75,206,834
		総資産の部 合計	300,999,838
資産の部 合計	390,381,349	負債及び純資産の部 合計	390,381,349

平成26年度 社会福祉協議会予算

収支予算

